

海外安全対策情報平成25年度第2四半期（7～9月）

1. 社会・治安情勢

（1）9月下旬に水力発電所建設に反対する住民による暴動事件が発生し、国家文民警察の施設に火が放たれた他、サンタ・クルス・バリジャ水力発電所の施設の一部が破壊され、軍関係者1名が亡くなる事態になる等、依然として社会の不安は大きい。

（2）治安の悪化が大きな社会問題となるなか、現政権は軍と警察の連携を強化し、治安の低下が顕著なグアテマラ県を中心に治安回復作戦を進めているが、治安回復上の決定的な打開策とはなり得ていない。

（3）国家文民警察のデーターによると、2013年（1月～9月）の犯罪被害による死亡者数は4,043人（前年は3748人、前年比7.9%増）と統計の上でも治安改善には至っていない。

（4）対日感情については良好である。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）国家文民警察の発表によると、第3四半期の当国における総犯罪発生件数は9,406件と前年第3四半期の9,013件と比較して4.4%の増加となっている。また、殺人件数は1,307件で前年第3四半期から1,299件と0.6%増と、依然として治安回復の兆しは見られない。なお、第3四半期における犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	1,307件（前年比	0.6%増）
傷害	1,502件（	0.9%減）
強盗・窃盗	4,669件（	3.7%増）
強姦	191件（	7.9%増）
誘拐	12件（	45.5%減）
行方不明	1,184件（	20.7%増）
家庭内暴力	541件（	4.8%増）

（2）銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、第3四半期で治安当局が取り扱った殺人事件1,307件のうち、銃器を使用した事件は1,051件（全体の80.4%）、同じく傷害事件1,502件のうち銃器を使用した事件は965件（64%）に達しており、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

（3）邦人の被害事案

ア 7月27日、トトニカパン県において、お祭りを見学中にスリに遭い、バ

ッグの中の携帯電話を盗まれる事件が発生した。

イ 9月15日、グアテマラ県において、偽タクシーに乗ってしまい、車内において運転手役と乗り合わせた他の乗客役の犯人に羽交い締めになれ所持していたバッグ・携帯電話等を強奪される事件が発生した。

(4) 邦人以外の被害事案

ア 7月2日、グアテマラ市第3区において、女性2人が乗る車に強盗犯が無理矢理押し入り、車ごと女性たちを誘拐し車内で現金、クレジットカード及び携帯電話を強奪する事件が発生した。

イ 7月3日、スチペケス県においてトゥクトゥク（オートバイ型タクシー）に乗車した女性が、そのまま、連れ去られ強姦される事件が発生した。

ウ 8月7日、グアテマラ市第13区において渋滞を避けるために幹線道路から迂回したバスをオートバイに乗った強盗が襲撃する事件が発生した。

エ 9月11日、グアテマラ市第10区の第5通りと8番通りの交差点（当館より北東1.5km）において、男性1名が銃で撃たれ負傷する事件が発生した。

オ 9月30日、男性が自宅から出たところを待ち伏せていた強盗に襲われ財布と携帯電話を強奪される事件が発生した。

3. 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民や外国人がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人（東洋系外国人）は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4. 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキは発生していないが、引き続き各種社会運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。